

人が進むべき正しい方向を道と言います。正しい方向の果てには理天神となるのが約束されています。言い換えると、道とは理天神になる修行の路程です。したがって、正しい信仰とは、生きながらにして、菩薩行をなすことだと考えます。

「上に道を求めつつ、下に衆生を救う行」

利己的欲望を捨て切らない限り、本当の幸せは訪れません。また、修行の基本は、謙虚さにあります。

「私があなたを救うのではありません。あなたが私を救うのです」という信念と、その実践のみが自己の救済となるのです。

修業とは、無になり、無心になることです。無を修める行です。

無心とは、黙して語らない状態でありませんが、ただ黙って座っているだけでは、何の意味もありません。修業の結果、人の心を知り、それを写し出すことが、できなければならぬのです。相手が何を欲し、何を求めているか、顔や目の輝きで理解でき、相手と融合することができるようになれば、修業とはいえませぬ。人の悩みを解き、その苦しみを解くことが修行の道です。その人の喜ぶようす、笑顔を見てみたい、万々年の幸せを分かち合いたい、そう自然に考えることができるのが、真の修行者なのです。

人間が尊ぶべき八徳

考…父母の言うことを聞き、心配をかけず、親孝行をすること。

悌…兄弟仲良く、兄弟を敬い、弟や妹をかわいがること。

忠…正しくまっすぐで変わらぬ心を持つこと。

信…自分にも人に対しても、嘘のない真実の心を持つこと。

礼…礼儀正しくすること。

義…正しい行いを心掛けて悪事を働かないこと。

廉…いつもきれいな心であり、欲ばらないこと。

恥…恥ずかしい行いをせず正しく進むこと。

目で見たように霊界がわかる本 角川書店 徐錦泉